

<要旨>

背景

20～49 歳の日本人男性のおよそ半数が性的サービスを利用した経験があるとされているが、日本におけるセックスワーカー（commercial sex work, CSW）の利用に関するデータはまだ少ない。

調査方法

2022 年に実施された「日本人の性的活動に関する全国調査」のオンライン調査データを用いた（N=4000, 20-49 歳の日本人男性）。これまでの人生において、利用したセックスワーカー人数の中央値を算出した。ロジスティック回帰分析を実施し、日本人男性におけるこれまでの人生におけるセックスワーカー利用の有無が、社会人口学的要素、身体的要素、また、（性的なことへの）興味関心等がどのように関連しているかを分析した。

結果

これまでにセックスワーカーを利用したことがあると答えた男性のうち、その人数の中央値は、生涯を通じて 6 人（IQR 3-17）であった；過去 1 年間にセックスワーカーを利用したことがある人では、その人数は過去 12 ヶ月間で 2 人（IQR 1-4）であった。セックスワーカーをこれまでに利用したことがあると回答した人は、利用したことが無いと回答した人に比べて、高齢、既婚、異性愛者または両性愛者、高収入、高学歴である可能性が有意に高かった。

また、自己評価の高い人、性生活に対する満足度が低いいずれかである場合（性生活に対する満足度が高いと答えたか、もしくは低いと答えた場合で、どちらでもないなど中間層ではない場合）、性交渉の頻度を増やしたいという願望がある場合、また、性交渉が生活の重要な側面であると考えていると回答した人ほど、セックスワーカーをより利用していることがわかった。

結論

日本におけるセックスワーカー利用率の高さは、（こうしたサービスへの）アクセスのしやすさ、性的サービスの利用に対するスティグマの低さ、提供されるサービスの種類の多様性を反映していると思われる。高収入で雇用されている高年齢の男性は、サービスを購入するために自由に使える経済的資源を多く持っているが、収入の少ないパートタイムや無職の若い男性にとっては費用負担が大きい。これらの知見は、日本での安全な性的活動（sexual behavior）と、セックスワーカーの性感染症検診率の向上を目指した公衆衛生の取り組みへの重要な示唆となるであろう。